



正一位神徳稲荷 大明神社について

しとう しんいち
市東 真一
(淑徳大学地域創生学部助教)

本会では、かつて西堀土壘公園に存在した正一位神徳稲荷大明神祠について、土井尻周辺の住民を対象に説明会を行った。

正一位神徳稲荷大明神社は、建造年代不明の稲荷社で西堀土壘公園整備後に行方不明となっていた。2019年頃に、西堀の土壘の上にあった稲荷社が行方不明になっているという話を聞き、以後調査を進めていたところ偶然にも松本市錦辺にある収蔵施設において同稲荷社の祠は誰が預かったのかが分からない状態で放置してあることが確認された。祠は高さ100センチ、幅90センチ、奥行き90センチの比較的大型な祠となっている。祠以外にも、眷属像2体、神号額(石製)、鈴がある。祠は、建造年代は不明、現状を見る限り明治時代頃と推定。板葺き屋根の非常に大きな祠である。松本の稲荷信仰において、土壘に稲荷社を祀ることが特徴となっている。

現存する土壘にある稲荷社は、東町に存在する正一位夜光稲荷大明神社、御嶽本教松本唯一教会に合祀された正一位捨堀稲荷大明神など稲荷社がある。土壘に稲荷社が設置される背景には、明治時代の松本市内の土地利用とともに、小高い所に祠を置く稲荷信仰の特徴がある。

松本の様子を探る上では重要な資料であり、遺棄されている現状について何かしらの働きかけをしなければならぬと考えられる。あわせて、今後この祠の活用については地域とともに活用と保存していく糸口を探していきたい。



実際に見ると大きい!



実物を見学

本来あった場所である土壘に戻るのが理想的といえますが、何処へ戻すのか?管理は今後どのような形が可能なのか、地域の宝を考えていく必要があります。

松本城 天守床磨き

新型コロナウイルスの流行の為に中止となっていた松本城天守床磨きも今年度より、人数の制限はありませんが再開されることになりました。大手公民館は六月二十一日に十名の募集のところで七名の参加でしたが他の団体も含めて約八十名で行われました。米ぬかとクルミで作ったタンポで、汗をかきながら丁寧に城内の床を磨きました。コロナ前は各ボランティア団体または、育成会のごも達などの手で年数回行われていて、城内の床は黒光りしていました。三年程の間は松本城の職員の方々の手で清掃されていたことですが、床磨きまでは無理だったと思います。

これからは徐々に回数も増えて、また以前の様な黒光りのする松本城にしていきたいと思えます。そして国内外の観光客の皆さんに松本市の誇りである国宝松本城をしっかりと目に焼き付けて帰っていただきたいと思えます。

床磨きのもう一つの楽しみは、後半三十分程のお話会で、毎回松本城研究員の先生方のお城に関する様々なお話を聞くことが出来ます。今回

は市文化財課城郭整備松本城研究室の小山淳一さんから、新発見「信州松本城絵図」についてのお話をしました。「信州松本城絵図」はフィンランドの医師、ヤニ・アントラ氏が二〇二二年に購入した生坂村の古民家の蔵の中から二〇一九年秋に発見され松本市に寄贈されたそうです。作成年代は第十代城主水野忠職の頃に描かれたのではと思われます。この絵図より城下の地割や町々を簡略化して表す一方で、本丸や二の丸の様子は詳しく描かれているようです。



月見檜を磨きました

今回も床磨きの後のお話会で私達の知らない松本城に関する話等を聞くことが出来ます。夕方の一時間程度です。皆さんも是非参加してみませんか。次回の大手公民館の日程は九月六日(水)となっています。(T・Y)

長元坊チヨウゲンボウ

コロナウイルスの蔓延により、人の集まる催しもの（運動会や文化祭、地区のお祭り）は中止、会議はリモートになり、個人の旅行すら自粛されてきました。常にマスクをし、うがい手洗いは当たり前が普通の生活となつてから3年、ようやく5月に緩和されて人々の生活も普通に戻りつつあります◆そんな中、地区の神社でも今年には普通にお祭りをすることが決められて準備に取り掛かりました。しかし、困った事が起こりました。この3年の間に祭りの運営を行う総代の半数以上が入替わってしまった、経験のない人が多数となつてしまったのです◆しかも3年たつと記憶も曖昧になり進行はどうだった？花火は？露店商は？神輿は？担ぎ手はどうする？各種の許可も取らなければいけない等々、お祭りの日は決まっています。毎日があてんやわんやで準備に明け暮れています◆それでも普通にお祭りを行えることに感謝し、お祭りを楽しみたいと思つています。この館報が出る頃は、各地の夏祭りも最盛期を向かえている頃です。皆さんも思い切り楽しみましょう。(U・M)

町会紹介 六九町

「六九(ろくく)の町名の由来は江戸初期に五十四頭の馬を飼育する東西八十八間半の厩が大手門西女鳥羽川北岸に造られ、六九馬屋と称されたと「信府統記」にあり、武家屋敷が並び江戸後期は官庁街でした。明治大正昭和と松本市の中心的な商業地として栄え、アーケードを有していた通りでしたが百貨店や商店が次々と撤退していききました。平成令和になりレトロな佇まいや看板建築の魅力を



六九町クラフトストリートの様子

生かしたりノベーションによる店舗が徐々に増え、地方都市のファッションブランド直営店やリバーサイド環境を生かした造りの有名デザイナーブランド店などの若い方々が集まる町に変わりつつあり、昔ながらの商店に加え美容院、レストラン、居酒屋、喫茶店なども建ち並んでいます。また「クラフトフェア」の時には「六九クラフトストリート」として各地のギャラリーが展示する企画が行われ賑わいをみせています。六九町町会(日・日)

中央地区の樹木 16

外堀に咲き始めた スイレンとハス

スイレンはスイレン科、ハスはハス科の水生植物。松本城管理課によると、国宝松本城の北西外堀(埋橋)の近くに、15年前頃から誰かが投げ込んだと思われるスイレンとハスの花が年々増えて一面に咲き始めた。スイレンの開花時期は5月〜10月。黄、白、ピンク色などの花と、円形で切れ目があり水を

はじかない葉が水に浮いているように見える。根は球根。ハスの開花は7月〜9月。主にピンク色の花と水をはじく大きな丸い葉が水面から一メートル以上茎を伸ばした先に付く。花は初日、夜明け前に咲き始め正午に閉じる。2日目夜明け前に開き午後八分閉じる。3日目夕方まで咲き外弁から散り始める。4日目午前中に散る。堅い蕾が一気に開くとき「ポン」という音がするといわれている。仏教では泥水の中で清らかな花を咲かせ、仏の知恵や慈悲の象徴と

退任のあいさつ

中央地区町内公民館長会
前会長 箕輪 徹朗

2015年から約8年間務めさせていただきました。コロナ禍により活動の制限はありましたが、早朝歩こう会、毎朝のラジオ体操への協力は実施出来ました。コロナ禍以前のバス視察研修は楽しかった大きな思い出となっています。大手公民館の方々のご指導はもとより町内公民館長会役員また会員の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。7月にバス研修も決まり新たなスタートが切られました。新しい上條会長のもとで益々の活躍発展を祈念申し上げます。

新任のあいさつ

中央地区町内公民館町会
新会長 上條 直利

私の子どもの頃は隣近所との繋がりが強く、地域の中で育てられていたように思います。最近は薄れてきた感がありますが、人と人とのつながりを大切に生きていくことこそ、これから必要にされていくような気がしてなりません。町内公民館の存在や活動は目立たないものの、今まで関わりが少なかつた方も是非一度活動に参加して体験してみたいと思います。よろしくお祈いします。

中央地区町会連合会 町会長紹介

- 大 薦 宏(上土町)
- 北原 嗣正(緑町)
- 望月 益榮(小柳町)
- 長谷川 均(大名町)
- 遠藤 彰(代理・南土井尻町)
- ◎栗田 幸一(土井尻町)
- 宇留賀 勝(北土井尻町)
- 奥田 正男(二ノ丸町)
- 山本 文彦(西堀町)
- 小出 忠雄(六九町)
- ◎赤羽 郁夫(今町一丁目)
- 青木 康治(今町二丁目)
- ◎野村 長司(松栄町)
- 中田 充(鷹匠町)
- 中田 俊雄(丸の内)
- 中村 恭平(大柳町)

(◎)会長 (○)副会長



もうすぐ開花のハスとスイレン